



zoom

伝統工芸用具・原材料の持続可能な確保に向けて
一分野・業種と超えた情報共有・交流へ



第1回座談会「漆の会」／「環境×文化」
問題が起きづらい構造、
起きてても対応できる
“社会の生態系”をつくる

@ZOOM

主催：文化庁

2021年2月10日17:30-19:00

佐藤真久

東京都市大学大学院 環境情報学研究科教授

m-sato@tcu.ac.jp/masahisasato@hotmail.com





グローバルで複雑な問題がもたらす 文化の多様性の危機

気候変動

ユースの雇用問題

グローバルな金融・経済危機

教育の質

ガバナンス

自然災害

肥満

高齢化

貧困格差

大都市化

社会的公正

エネルギー問題

紛争

生物多様性喪失

人工知能に奪われる職

水問題(質、量、アクセス)

COVID-19パンデミック



グローバルで複雑な問題がもたらす 文化の多様性の危機



持続可能な開発目標(SDGs) 2016-2030

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう 	6 安全な水とトイレを世界中に 
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう 	11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 
13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさも守ろう 	16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて 世界が合意した 「持続可能な開発目標」です



SDG 4.7. 文化の多様性に関する指摘



2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする。



MDGsとSDGs ～異なる社会背景と問題認識

貧困・社会的排除問題の解決



MDGs(2001-2015)

開発アジェンダ

人権・社会的公正・開発(経済・社会・人間)

2000年代

貧困、飢餓、HIV/AIDS、南北問題、債務危機、紛争、衛生、水のアクセスと質、非識字、教育のアクセスと男女格差、社会的公正、など

貧困・社会的排除問題 ／地球環境問題の同時的解決



SDGs(2016-2030)

開発・環境アジェンダ

地球資源制約・環境保全・自然生存権・
人権・社会的公正・開発(経済・社会・人間)

今日

気候変動、生物多様性喪失、自然災害、高齢化、エネルギー問題、社会的公正、ガバナンス、肥満、紛争、貧困格差、教育の質、ユースの雇用問題、人工知能に奪われる職、グローバルな金融・経済危機



持続可能な開発目標(SDGs) 2016-2030





無形文化遺産の保護に関する条約 (2003)

無形文化遺産の保護に関する条約(2003)

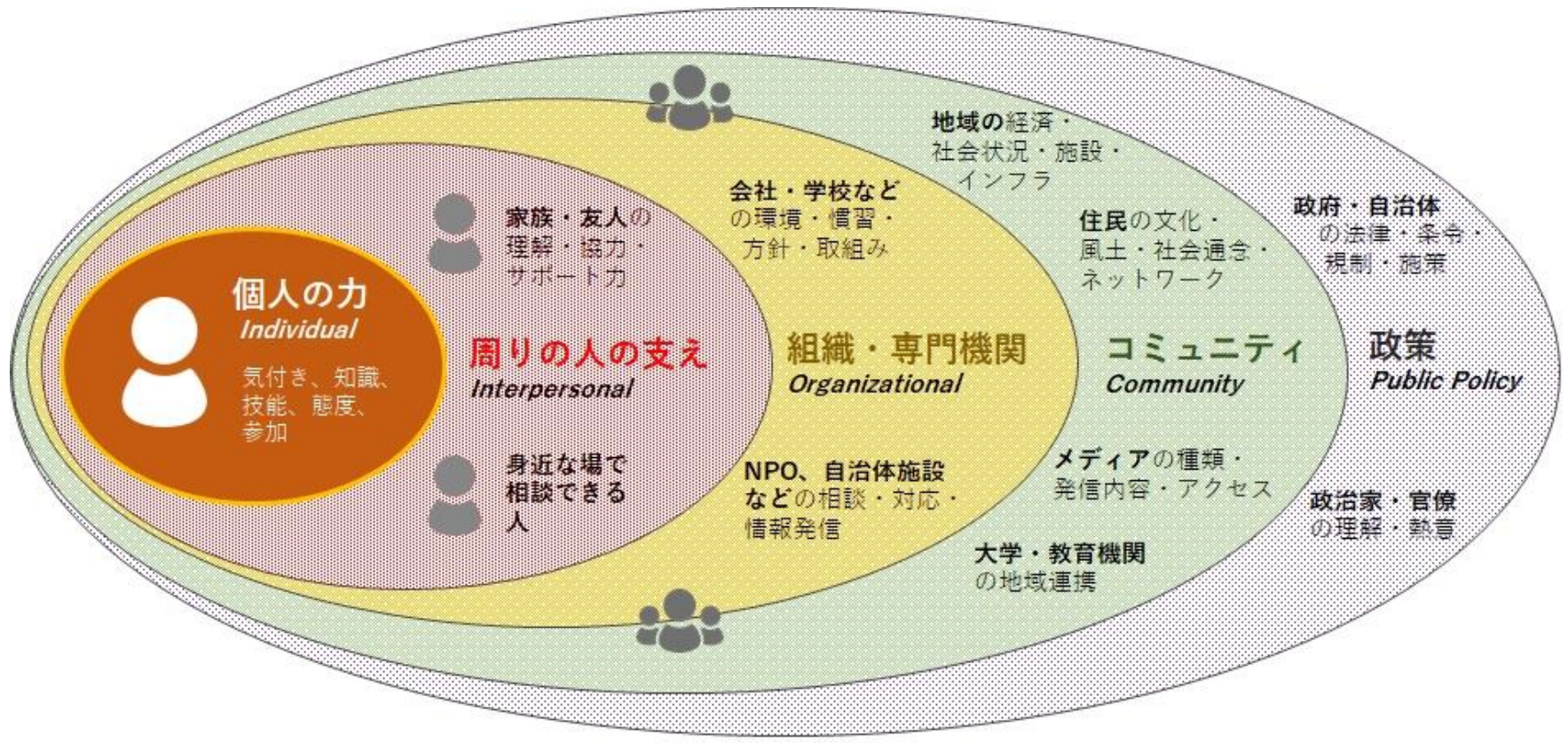
・無形文化遺産とは、慣習、描写、表現、知識及び技術並びにそれらに関連する器具、物品、加工品及び文化空間であって、**社会集団及び場合によっては個人が自己の文化遺産の一部として認めるものをいう**。

- **地域社会、集団、個人(communities, groups, individuals)が自分たちの文化遺産の一部として認めるもの**
- **コミュニティの存在と役割を前提**



“複雑な問題”とその統合的問題解決 ～社会生態モデル

困難な状況にいる個人を教育、支援をしても、その人が力を発揮し、良い状況をつくるには、多層的な人・組織・制度などが連動している必要がある。



※ Combined capabilityの概念と、CDC「Social Ecological Model」を組み合わせ、著者ら作成

“複雑な問題”とその統合的問題解決 ～その意味するところ



▶ 世界の問題は複雑なシステム(問題群)

- ・ 世界の問題(問題群)もシステムで解決
- ・ 多様な主体とのパートナーシップが前提

▶ 線形的な思考の限界

- ・ 分業化・専門特化の弊害
- ・ システム思考(因果ループ、時間的変化、異なるメンタルモデル)を活かした課題解決
- ・ 異なるメンタルモデルを活かした動的(dynamic)で、包括的(inclusive)な、力を持ち寄る(collective)協働へ

▶ 問題の解決する姿

- ・ 個々の課題解決(分業化と自己責任論に基づく)から、問題がおきづらい構造、起きても対応できる構造を整える必要性





“複雑な問題”とその統合的問題解決 ～問題がおきづらい構造、起きてても対応できる構造

求められる発想の転換

▶ 伝統工芸用具・原材料の持続可能な確保

- “複雑でグローバルな問題” のなかで課題を認識する必要性
- 個別の問題解決ではなく、統合的な問題解決の重要性

▶ SDGsの本質に対応する

- “日本社会の過去の成功体験が変容を受け入れない”
- SDGsの本質: 変容(変える⇔変わる)に向き合う

▶ つながりの力を高める(コミュニケーション)

- 求援力(助けを求める力)を高める
- 受援力(他者からの助けを受ける力)を高める

▶ 無形文化遺産が有する“コミュニティの力”を高める

- 専門分化・縦割り・自分だけよければいいという発想から脱却
- 他者・外部化の発想(例:新自由主義経済)の弊害
- 社会生態系(多様なコミュニティ)の構築へ

